



TITLE:

# 日本一のクラゲ天国田辺湾(6) アマクサクラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(6) アマクサクラゲ. 紀伊民報 2011

ISSUE DATE:

2011-01-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180139>

RIGHT:

© 紀伊民報社

紀 伊 民 報

2011年(平成23年)1月20日 木曜日 第20493号 (12)

アマクサクラゲ



筆者が田辺湾で初めて出合ったアマクサクラゲ

久保田 信

6



昨年の大みそか、18年になる白浜町での研究生活で初めてアマクサクラゲに遭遇した。南日本では比較的多く見られる南方系の鉢クラゲだが、紀南地方では希少種で見

た人も少ないと思う。その日は寒波の影響で海は荒れ、立ち寄った瀬戸漁港では吹き寄せが多くあった。海表面にあるいろいろなごみに交じって本種を見つけた。すでに死んでいて浮かんではいたので確保は簡単だった。長く伸びたフリル状の口腕(こうわん)は薄紫色で本来は四つあるが、半分が取れてなくなっていた。傘の縁に砂が付着しており、付近の砂浜へ打ち上げられた後、海へ戻されたと推測される。透明な傘の中心から縁に向かって放射管が多数見える。放射管が幅広く袋状になって

いるのが本種の特徴の一つで、今回、そのいくつかに砂が入ったおかげで1本ずつの大きがよく分かった。

4カ所にある多数

の指状突起からなる生殖巣はむき出しになっていて、やはり損傷している。この個体の画像は口側から撮影したのだが、反対側から見ると全体にいはいがたぐさんある。ここには刺胞(しほう)がぎっしり詰まっているはずだが、擦れてしまったのかわからなかった。

アマクサクラゲは毒が強く、刺されるとかなりうずくので、見つけても不用意に触らないよう注意が必要だ。平らな傘は直径10センチ達する。この個体は95ミリだったので十分に成長している。

若いポリプは、親から受精させて得たものが日本各地の水族館で飼育展示されている。鹿児島湾の深い海底に生息するサツマハオリムシの巣の上から発見された特殊な例もある。ポリプが若いクラゲのエフィラをつくるとき、1個体から1個体しかつくらない。これは、同じ仲間のよく知られるミズクラゲが多数つくると異なっている。

(京都大学准教授)